

平成 30 年 4 月 3 日
日本船主協会 企画部広報室

海運の重要性を学校教育の場で
～東京国際コンテナターミナルおよび川崎港の見学会を実施～

日本船主協会は、学校教育において、わが国の暮らしと産業を支える海運のことを取り上げていただくよう、海事関連施設と組み合わせた見学会等を実施しております。

今般、日本海事広報協会と共催で、川崎市港湾局・商船三井・宇徳・日本船長協会の協力を得て、3月29日（木）に都内の小学校の校長・教師を中心に学校教育関係者 約 30 名を対象に、東京港大井埠頭の東京国際コンテナターミナルおよび川崎港見学会を開催しました。

東京国際コンテナターミナルでは、同ターミナルは世界と日本を繋ぎ首都圏の生産・消費活動を支える玄関口としての役割を担っているなどの説明を行うとともに、実際のコンテナが運び込まれる様子を見学することができました。参加者からは「1 時間に何個のコンテナを荷下ろしできるのか」「どこで・誰が積み下ろしの作業をしているのか」「コンテナはどこから運ばれてきたのか・どのような物が入っているのか」などの質問がありました。



また、川崎港では、同市港湾局視察船に乗船し、海側から航行する商船や荷役中の商船、また、LNG 基地や石油基地などを見ることができ、川崎港が首都圏の生活・産業を下支えしていることを実感することができました。

両見学を通じて、海運をはじめとする海事産業は、日々の生活と密接に関わっていることへの理解を深める機会となりました。

参加者からは、「コンテナターミナルは迫力があつた。児童にも見せたい」「児童にとって海運は身近でなく、興味を持ちにくい分野。いかに日常生活と結びつけるかが重要」「実際に乗船することは記憶として残るためいい経験である」などの感想が寄せられました。

当協会では、今後とも各自治体や地元企業等からのご協力も仰ぎながら皆様の日々の生活を支える海運を広く知っていただくための活動を実施してまいります。

